稼いでママを助けたい

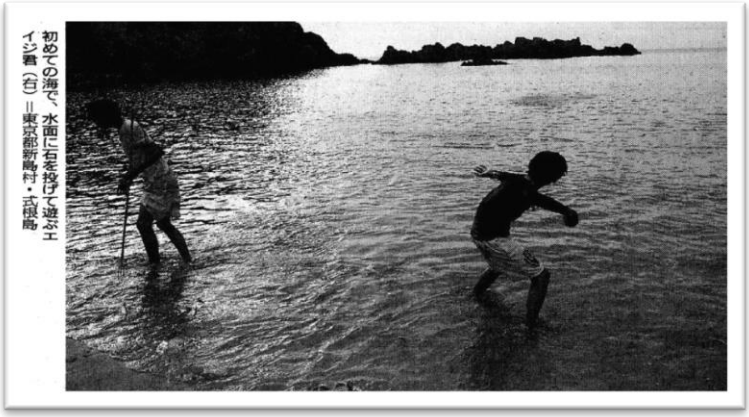
2013 年 8 月 5 日、東京都　式根島。　青い海、心地いい風、熱い砂・・・。

豊島区から来た小学 6 年生のエイジ君（12）＝仮名＝は、目を輝かせた。

生まれて初めて、海を間近に見た。夢中になって飛び込んだ。シュノーケルをつけ、泳ぎながら釣りをしたり、ヤスで魚を突いたり。

3 泊 4 日のキャンプだった。豊島区の有志が集まり、経済的に厳しい家庭の子を支援する NPO「豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク」などの協力で無料で企画した。小学生から高校生までの 6 人が参加。エイジ君にとっては、旅行も、船に乗るのも初めての経験だった。

最終日に「初めて」がもう一つあった。今月 11 日が誕生日。毎年、母（38）が「おめでとう」と言ってくれるだけで、ケーキやごちそうで祝ってもらったことはない。家が貧しいのを知っているから「ごちそうして欲しい」と言ったこともない。



初めての海で、水面に石を投げて遊ぶエイジ君（右）＝東京都新島村・式根島

そんな事情を知ったキャンプの参加者たちが、アイスクリームでお祝いし、ハッピーバースデーを歌ってくれた。エイジ君は照れくさそうに、「ありがとう」と言った。

帰宅後、母に楽しかった思い出を伝えた。「魚のさばき方を高校生に教えてもらったんだよ。ママにも作ってあげる」

2 部屋のアパートで母と 2 人暮らし。

母は長く、子宮筋腫とうつ病を患う。筋腫による腰痛で動けない日もある。体調が悪いと、食事の支度さえできず、パンやおにぎりを買って済ます。母の両親は離婚し、双方とも疎遠になっている。酒癖が悪く、暴力をふるう夫とは、エイジ君が 6 歳のときに離婚した。タクシー運転手やパート仕事をしていたが、病状が悪化し、数年前から生活保護だけに頼っている。

その生活保護は、制度が変更され、今月から減額に。生活費にあたる生活扶助費は先月よりも 4.040 円減って、月額 15 万 1.630 円。2015 年度までに、さらに下がる見込みだ。母は「月末は千円のやり繰りにさえ苦労してきた。この先、どうなるのでしょう」。

少しでも食費を増やすと、生活保護費の支給日前にお金が底をつく。冷蔵庫の残り物を大切にし、買い物では売れ残りの値引き品を探す。夏休み中の今は給食がない。毎朝、2 人で遅めに起き、1 日 2 食で我慢している。

家にテレビはない。小型ゲーム機は買ってあげた。「僕だけゲームを持ってないから、みんなの仲間に入れてもらえない」。そんな息子を不憫に思い、少しずつお金をため、1 万 5 千円のゲーム機をクリスマスにプレゼントしたのだった。

エイジ君は月に 1～2 回、豊島子ども WAKUWAKU ネットワークの食事会に参加している。同じ境遇の友だちや支援者たちと、心置きなく会話ができる。あるとき、ネットワークの栗林知絵子代表（46）に「お母さん、僕のせいで入院できないんだ」と、打ち明けた。

母は手術が必要だが、1 週間以上の入院が伴う。その間、自分の面倒を見てくれる人がいない。だから、病気は進行するのに我慢しているのだという。

栗林さんは「エイジ君はうちで預かるから入院して」と申し出たが、母は「生痛保護を受けるだけでも申し訳ない気持ち。これ以上、人に迷惑をかけられません」と固辞したという。

母は今、こう話す。

「自分は我慢できる。でも、息子には経済的な理由で将来を諦め、希望を捨てるようなことはさせたくない」

せめて高校を卒業し、自力で生活できるようになってほしい。でも、こんな暮らしぶりで、勉強を頑張ることができるのか心配だ。今月から生活費が減ったことは、息子に伝えられずにいる。

エイジ君は「勉強は苦手だけど、ちゃんと稼げるようになって、ママを助けたい」。

経済的に苦しい家庭の子どもたちの「今」を追う。　　2013.08.21　朝日新聞（斉藤 純江 記）

「エイジ君」は小学 6 年生の 12 才です。
「陽公君」「満晴君」が成長してこの年代の頃には、時代に変化も生じるだろうが「エイジ君」のように、親を思う「心」を心の奥深くに育つことを願うのみです。Yuuji